

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 伝統工芸品デジタル促進実践研修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3782)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,442 千円 (前年度予算額： 3,442 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,442	3,442	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,442	1,622	0	0	0	0	0	0	1,820
決定額	3,442	1,622	0	0	0	0	0	0	1,820

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

生活様式の変化に伴う工芸品市場の縮小が続く中、伝統工芸品産業の振興を図るための新たな切り口として、各事業者がデジタル技術を活用し、販路開拓に取り組むとともに、伝統工芸品の魅力を広く発信していく必要がある。

一方、伝統工芸品の従事者の多くは高齢化でデジタルに関する知識が乏しく、SNS等を活用した情報発信が技術的に困難であるという現状がある。

そこで、県内の伝統工芸品産業の従事者等を対象としたデジタルリテラシー研修を実施し、デジタルに関する基礎知識の底上げを行うことで、伝統工芸品の産業振興を図る。

(2) 事業内容

伝統工芸品産業に携わる職人等を対象にデジタルリテラシー研修を実施し、EC導入やSNS等を活用した情報発信に必要なスキルの習得を促す。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統的工芸品等の振興を図る取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	150	職員業務旅費
需用費	24	消耗品費
役務費	24	通信運搬費
委託料	3,244	研修実施
合計	3,442	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (2) 次世代を見据えた産業の振興
 - ③ 県内産業の活力の強化と新事業展開の推進
- デジタル・トランスフォーメーション推進計画
 - 10 産業・労働
 - (4) 上記のほか各産業の特性や動向を踏まえたデジタル技術活用の促進
 - ⑤ 地場産業

(2) 事業主体及びその妥当性

本県の伝統工芸品の振興を図るとともに、伝統的工芸品や郷土工芸品の産地におけるデジタル促進事業を展開し、伝統産業分野におけるDXを推進する取組みの支援を実施するものであり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 伝統産業従事者のデジタル化を支援し、産業の活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3末)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
ECサイト立ち上げ件数	-	9件	10件	10件	10件	90%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>以下の研修により、伝統産業に携わる職人等のデジタルリテラシー向上を支援</p> <p>①オンラインショップ制作講座(2クール(1クール全3回のため、計6回)) 参加者：9名(全員がECサイトを立ち上げ)</p> <p>②スマホ写真撮影講座(2回) 参加者：12名</p> <p>③SNS入門講座(1回) 参加者：21名</p> <p>④クラウドファンディング活用講座(1回) 参加者：24名</p> <p>指標① 目標：10件 実績：9件 達成率：90 %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤がぜい弱であるため、継続した業界支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	デジタルの知識が乏しい者にもわかりやすい初心者向けの内容にすることにより、受講者の満足度も高く、有効である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	事業内容を精査したうえで、必要額のみを予算措置し、経費削減につとめている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統工芸品の需要は著しく減少している

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統工芸品は、現在のモノづくりの原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRするとともに、デジタル化等の需要拡大に係る支援を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】